進取の気概

（校長室だより）

有田市立箕島中学校

自主 友愛 剛健

R5・9・27

No.22

ある日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになっていらっしゃいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊からは、何とも云えない好い匂いが、絶え間なくあたりへ溢れて居ります。極楽は丁度朝なのでございましょう。・・・・・・・・・・・・・・

芥川龍之介の「蜘蛛の糸」という作品の冒頭の部分です。みなさんも知っていると思います。この物語のあらすじを思い出してみてください。

地獄の底の血の池でもがいていたカンダタの前に，一本の銀色の蜘蛛の糸が降りてきました。これは，極楽からお釈迦様がカンダタを地獄から救い出してやろうとして垂らした糸です。地獄の血の池でもがいていたカンダタは，この糸を登っていけば、地獄から抜け出せる、血の池から逃れられる，うまくいくと極楽へ行ける……，カンダタは蜘蛛の糸に飛びついて夢中で登りました。どのくらい登ったでしょうか。カンダタはふと下を見ると、カンダタにならって，後から後から数限りもない人たちが登ってくるではありませんか。自分一人でさえ切れてしまいそうな細い糸なのに，こんなにたくさんの人の重みに堪えられるかどうか……。糸が切れてしまうと、地獄に戻ってしまいます。

「この蜘蛛の糸はおれのものだぞ。お前たちは下りろ。下りろ。」

彼が怒鳴ったとたん，蜘蛛の糸はカンダタの目の前でぷつんと切れてしまいました。カンダタも他の人たちもくるくるまわりながら、まっさかさまに地獄へ落ちていってしまいました。

極楽から見ていたお釈迦様の顔には，深い悲しみが表れました。

以上があらすじです。カンダタの後をついて登ってきた人たちも，カンダタと同じように地獄から抜け出したかったのです。しかし，カンダタにはその切実な願いがわかりませんでした。自分と同じように他の人も幸福になりたいという願いが・・・。お釈迦様は，カンダタに他の人の気持ちをわかってほしかったのでしょう。

「Well-being(ウェルビーイング)」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。心の中で誰もが幸せになりたいという思いを持っています。自分の幸せだけではなくで、家族や友だち、学級・学年・学校の仲間、自分の住む街・国・世界が、どのようにすれば良い状態（幸せ）でいられるのかについて考えて行動しましょうということです。

一度、自分で「Well-being(ウェルビーイング)」について調べてみてください。そして、これからの社会生活において、自分に何ができるかを考えて行動することを心がけていきましょう。